

立川消防署からの情報提供

1 地域防災力の向上について

(1) 関東大震災100年

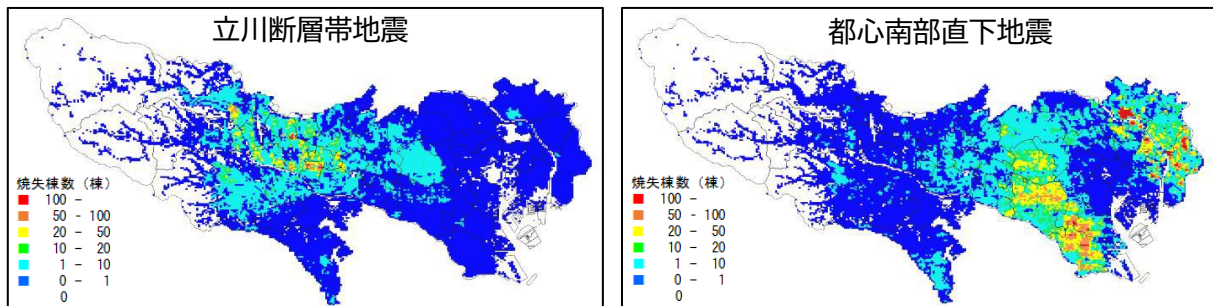
今年は、関東大震災（1923年9月1日11時58分発生）から100年の節目の年です。

関東大震災では、東京府で20万5,580棟の建物被害のうち約85%（17万6千棟）、7万人を超える死者のうち約95%（6万6千人）が火災によるものでした。

(2) 首都直下地震等による東京の被害想定

令和4年5月に東京都防災会議により「首都直下地震等による東京の被害想定」が示されました。

【焼損棟数分布】



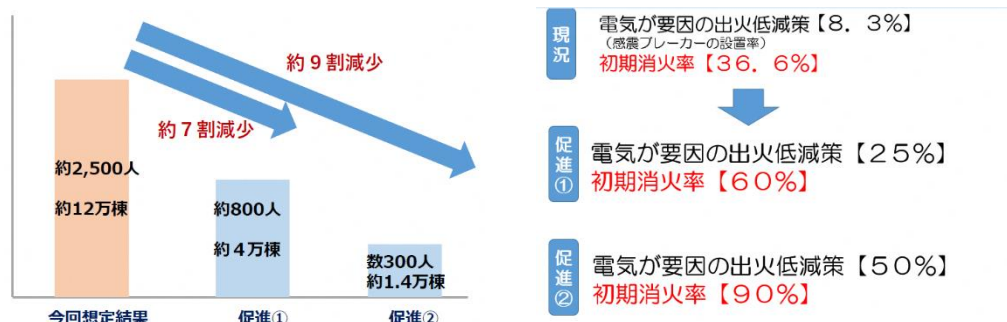
	出火件数	焼損棟数
23区	41件	3,627棟
立川市	26件	4,348棟

	出火件数	焼損棟数
23区	533件	109,111棟
立川市	3件	161棟

(3) 初期消火率向上の必要性

平成28年12月に新潟県糸魚川市で発生した火災は、火元の飲食店から出火し、147棟（全焼120棟）が焼損、消防車235台、消防隊員1,887人が消火にあたりました。

震災時には同時多発的に火災が発生します。発生した火災をいち早く消火し、被害軽減を図るためには、地域の初期消火力の向上が重要です。「首都直下地震等による東京の被害想定」でも初期消火率の向上が被害軽減に繋がると想定されています。



2 救急車の適時・適切な利用に関するお願い

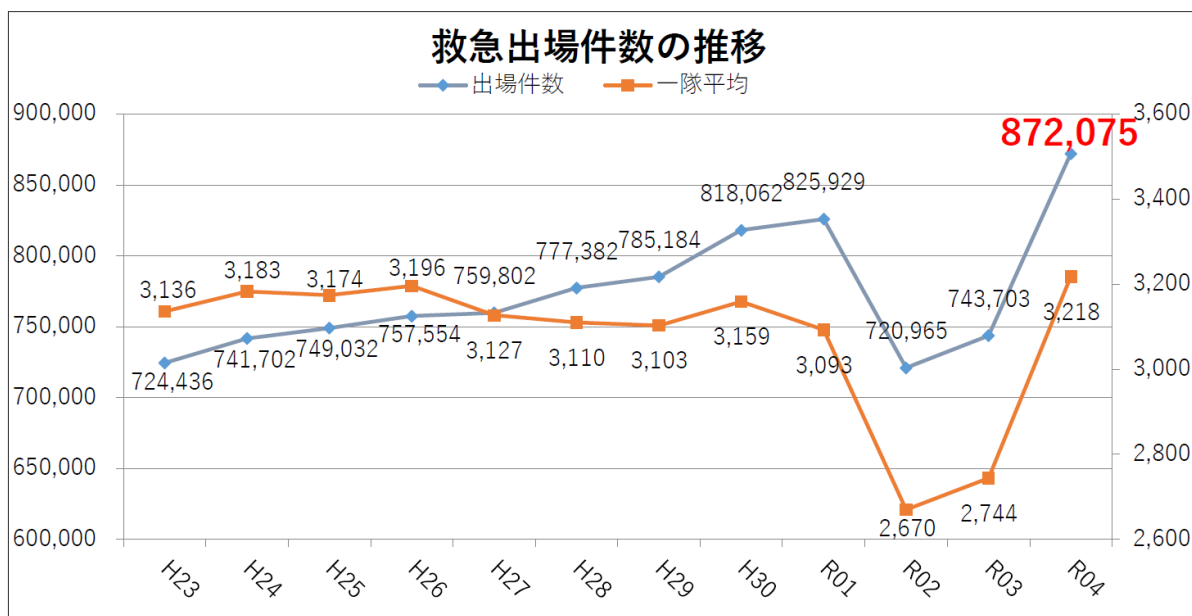
(1) 「救急車ひっ迫アラート」

東京消防庁では、救急需要が急激に増えた場合、必要な方に救急車が早期に到着できるように、適時適切な利用について広報を実施しています。

今年から特に急激に救急需要が高まった場合には「救急車ひっ迫アラート」というキーワードで救急の適正利用について呼びかけを行っています。

(2) 救急出場件数の現状

令和4年中の東京消防庁の救急出場件数は872,075件で過去最多(昭和11年以来)となりました。さらに本年は、前年を上回るペースで増加している状況です。



救急車の出場件数が増加することで、現場付近の隊が別件に出場していることから遠方の隊が出場する場合があります、その場合、現場に到着するまで長時間を要します。

救急現場までの平均到着時間は令和4年、5年は9分を超えています。

